

## 香算研が果たしている役割

香川県算数教育研究会 会長

2023年度の全国学力・学習状況調査の結果が7月末に公表されました。これまでの結果や推移を踏まえて、香川県算数教育研究会（以下「香算研」と称する）が県内小学生の算数教育にどのように貢献しているのかを考えてみたいと思います。以下の表1をご覧ください。

<表1> 全国学力・学習状況調査の香川県の結果推移

年 度		2007	2008	2009	2010	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2021	2022	2023
小 算数	県正答率 (%)	A 85.3 B 67.1	A 74.1 B 54.3	A 80.5 B 55.9	A 75.2 B 50.5	A 74.8 B 61.4	A 78.1 B 62.1	A 78.5 B 59.5	A 74.3 B 47.0	A 78.2 B 46.7	A 79 B 48	A 64 B 53	68	71	65	63
	全国比 (ポイント)	A +3.2 B +3.5	A +1.9 B +2.7	A +1.8 B +1.1	A +1.0 B +1.2	A +1.5 B +2.5	A +0.9 B +3.7	A +0.4 B +1.3	A -0.9 B +2.0	A +0.6 B -0.5	A +0.4 B +2.1	A +0.5 B +1.5	+1.4	+0.8	+1.8	+0.5
小 国語	県正答率 (%)	A 83.9 B 68.0	A 67.2 B 53.8	A 71.2 B 54.5	A 83.8 B 81.0	A 83.8 B 59.8	A 66.8 B 52.9	A 75.5 B 58.8	A 72.3 B 69.5	A 75.0 B 59.5	A 75 B 59	A 69 B 58	65	63	67	67
	全国比 (ポイント)	A +2.2 B +6.0	A +1.8 B +3.3	A +1.3 B +4.0	A +0.5 B +3.2	A +2.2 B +4.2	A +4.1 B +3.5	A +2.6 B +3.3	A +2.3 B +4.1	A +2.1 B +1.7	A +0.2 B +1.5	A -1.7 B +3.3	+1.2	-1.7	+1.4	-0.2
中 数学	県正答率 (%)	A 76.1 B 62.9	A 68.0 B 52.6	A 66.5 B 59.6	A 68.1 B 46.4	A 63.2 B 49.4	A 66.3 B 44.6	A 67.8 B 60.0	A 64.4 B 41.3	A 63.8 B 44.6	A 66 B 49	A 67 B 46	60	56	55	53
	全国比 (ポイント)	A +4.2 B +2.3	A +4.9 B +3.4	A +3.8 B +2.7	A +3.5 B +3.1	A +1.1 B +0.1	A +2.6 B +3.1	A +0.4 B +0.2	A ±0.0 B -0.3	A +1.6 B +0.5	A +1.4 B +0.9	A +0.9 B -0.9	+0.2	-1.2	+3.6	+2.0
中 国語	県正答率 (%)	A 82.7 B 74.0	A 75.7 B 62.7	A 79.1 B 75.9	A 76.2 B 66.1	A 75.3 B 62.3	A 76.6 B 67.0	A 79.3 B 51.4	A 76.0 B 64.9	A 77.2 B 67.5	A 78 B 71	A 76 B 60	73	64	70	70
	全国比 (ポイント)	A +1.1 B +2.0	A +2.1 B +1.9	A +2.1 B +1.4	A +1.1 B +0.8	A +0.2 B -1.0	A +0.2 B -0.4	A -0.1 B +0.4	A +0.2 B -0.9	A +1.6 B +1.0	A +0.6 B -1.2	A -0.1 B -1.2	+0.2	-0.6	+1.0	+0.2

- ・2011年度は東日本大震災、2020年度は新型コロナのため中止、2010、2012年度は抽出調査であった。
- ・理科についてはこの表に載せていない。
- ・全国と比べて高い結果はオレンジ色、低い結果は水色。全国とほぼ変わらない結果（-0.5から+0.5ポイント）は灰色とした。
- ・2017年度以降は、都道府県の結果については一の位までの概数で公表となったため、全国との比較で0.5ポイント以下の場合、全国を上回ったかどうか判断できない。
- ・A問題、B問題があったときは、全国比の平均値で全国を上回ったかどうかを判断した。

これを見ると、全体的に香川県の学力は高いということが分かります。香川の教育がよい成果を上げ続けてきているのは、香川県小学校教育研究会や香川県中学校教育研究会といった同好会組織が整っており、授業研究を続けていることが要因の一つに挙げられます。

その中でも小学校算数は、「全国を明らかに下回った年がない」というのが特徴です。香川県の学力低下が危惧された2021年度も、小学校算数だけは上回っていました。

全体的な傾向としては、どの教科も10年ほど前までは全国を大きく上回っていましたが、近年になってその差が小さくなってきています。これは、全国学力・学習状況調査の結果についての都道府県別ランキングなどが紹介され、下位であった自治体が対策を始めたことが理由と考えられます。近年の報道でも、学力の底上げが図られ、地域による格差が縮まってきていることが言われています。そのような中で、全国との差について小学校国語と比べると、算数は下落傾向が小さいとも言えます。

私は、この小学校算数の学力維持について、香算研が貢献している部分が大きいのと考えています。年3回の定例研では研究授業や実践提案を行い、毎年新春研では、県外講師を招いて最先端の学びを積み上げてきています。県の研究テーマについては年2回の役員会などで検討しながら、各支部の研究部長と共通理解を図って、県全体に授業づくりの方向を浸透させています。10年に1冊程度で研究図書を刊行し、会報「算数」には各支部からの指導

案や夏季研のまとめが掲載されて、香算研のホームページにも上げられています。当たり前のように続けてきたこの取り組みが実を結んでいると考えています。

小学校国語でも以前は香国研があり、大変熱心に活動していました。2006年頃にその組織がなくなり、今では香算研でも一部会として活動している「テスト・ワークの会」のみが存続しています。中学校の数学、国語でも、香算研のような同好会組織はないそうです。

小学校での学力を高く維持するのも大事ですが、私は子どもが算数好きになり、中学校、高校、社会人になっても、数学的活動を楽しむようにしたいと考えています。今年度の香算研の研究テーマも「子どもと算数を創る ～問いがつながり、数学的活動の楽しさを実感できる授業づくり～」としており、主体的、意欲的に学ぶことを最も重視しています。そのために香算研では、授業を工夫するだけでなく、ワークに「力のいずみ」という活用・発展問題、学習意欲を高める問題を入れたり、数年前からは、テストの裏面に「やってみよう」という主体的な解決を促す問題を入れたりしています。

そうしたとき、同じ児童群が中学校数学の調査結果でどのように変化があったかも気になるところです。中学校は3年生の結果であるため、その3年前の小学6年からの変化を見たとき、以下ようになります。

<表2> 小学校の結果の全国比と3年後の中学校の結果の全国比のポイントの変化

小 算数	2007年	2009年	2010年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2018年	2019年
	A +3.2 B +3.5	A +1.8 B +1.1	A +1.0 B +1.2	A +1.5 B +2.5	A +0.9 B +3.7	A +0.4 B +1.3	A -0.9 B +2.0	A +0.6 B -0.5	A +0.5 B +1.5	+1.4
中 数学	2010年	2012年	2013年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2021年	2022年
	A +3.5 B +3.1	A +1.1 B +0.1	A +2.6 B +3.1	A ±0.0 B -0.3	A +1.6 B +0.5	A +1.4 B +0.9	A +0.9 B -0.9	+0.2	-1.2	+3.6
ポイントの変化	-0.05	-0.85	+1.75	-2.15	-1.25	+0.3	-0.55	+0.15	-2.2	+2.2

小 国語	2007年	2009年	2010年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2018年	2019年
	A +2.2 B +6.0	A +1.3 B +4.0	A +0.5 B +3.2	A +2.2 B +4.2	A +4.1 B +3.5	A +2.6 B +3.3	A +2.3 B +4.1	A +2.1 B +1.7	A -1.7 B +3.3	+1.2
中 国語	2010年	2012年	2013年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2021年	2022年
	A +1.1 B +0.8	A +0.2 B -1.0	A +0.2 B -0.4	A +0.2 B -0.9	A +1.6 B +1.0	A +0.6 B -1.2	A -0.1 B -1.2	+0.2	-0.6	+1.0
ポイントの変化	-3.15	-3.05	-1.95	-3.55	-2.5	-3.25	-3.85	-1.7	-1.4	-0.2

- ・ A問題, B問題があったときは、全国比の平均値で3年後と比較し、ポイントの変化を判断した。
- ・ 3年後と比較して、ほぼ変わらない結果(-0.1から+0.1ポイント)は灰色とした。
- ・ 2011、2020年度が中止だったため、その前後3年については確認できないところがある。

全国比のポイントの変化はマイナスになっているところが多くなっています。特に、中学校国語は3年前の小学校国語と比較して、全ての年でマイナスでした。一方で中学校数学は、3年前の小学校算数と全国比はあまり変わらない結果となっています。プラスに変化している年もあり、国語と比較すると下落したときのポイント差も小さくなっています。中学校数学の指導がよいのでしょうか、小学校算数で学ぶ意欲や発展的思考を身に付けていることも要因の一つかもしれません。

このように、香算研の取り組みは確実に成果を上げていると考えられます。今後も我々の活動に自信をもって、香川県子どもたちが生涯にわたって数学的活動を楽しめるように育てていきたいものです。

参考文献 ・平成24年度 全国学力・学習状況調査報告書 平成24年11月 香川県教育センター  
 ・平成25年度 全国学力・学習状況調査報告書 平成25年11月 香川県教育センター  
 ・平成30年度 全国学力・学習状況調査報告書 平成30年9月 香川県教育センター  
 ・令和5年度 全国学力・学習状況調査報告書 令和5年10月 香川県教育センター